

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2018年2月)

発表日: 2018年4月9日(月)

～貿易収支の悪化を受けて、経常収支の黒字幅は大きく縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 小池 理人

TEL : 03-5221-4573

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2017	3月	29,959	17,920	2,453	3,739	▲ 1,286	16,732	
	4月	19,804	18,880	3,561	2,879	682	16,683	
	5月	16,932	16,114	1,652	3,222	▲ 1,570	16,131	
	6月	9,252	15,161	1,375	2,055	▲ 679	15,684	
	7月	23,471	18,112	3,901	5,098	▲ 1,197	16,091	
	8月	24,007	20,619	5,161	5,798	▲ 638	17,563	
	9月	22,583	18,367	4,029	4,938	▲ 909	16,320	
	10月	21,885	22,727	7,361	5,370	1,991	17,144	
	11月	13,407	18,673	4,064	5,012	▲ 947	16,609	
	12月	7,965	16,782	2,368	2,447	▲ 79	16,688	
	2018	1月	6,074	20,226	4,336	5,152	▲ 816	17,375
		2月	20,760	10,241	▲ 3,079	▲ 2,853	▲ 226	15,232

○経常収支（季調値）は貿易収支の悪化を主因として黒字幅が大幅に縮小

2月の経常収支（原数値）は20,760億円の黒字（コンセンサス：21,960億円の黒字、レンジ：18,120～29,079億円）とコンセンサスを下回る結果となった。季節調整値では10,241億円の黒字となり、前月から大幅に黒字幅が縮小した。

経常収支（季節調整値）の黒字幅縮小の主因は、貿易収支の赤字転化（1月：+5,152億円→2月：▲2,853億円）である。輸出が前月比▲5.1%と減少した一方で、輸入が前月比+7.1%と増加したことで貿易収支は赤字となった。ただし、今回の貿易収支の赤字転化は、春節の影響が2月の輸出金額の押し下げと輸入金額の押し上げに作用したことによる一過性のものであり、特に問題は無いだろう。

○直接投資収益が大きく押し下げ

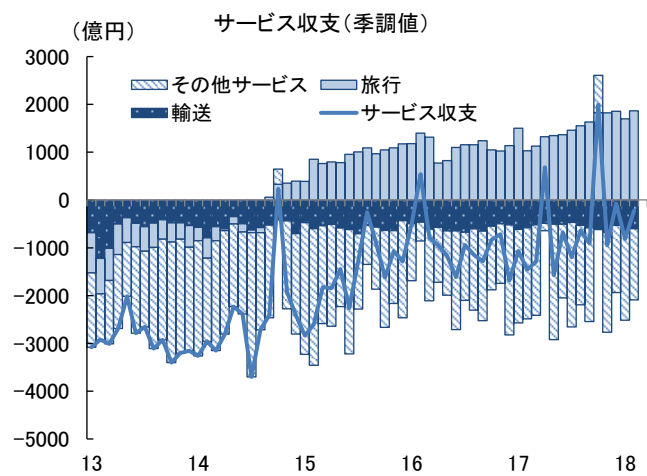
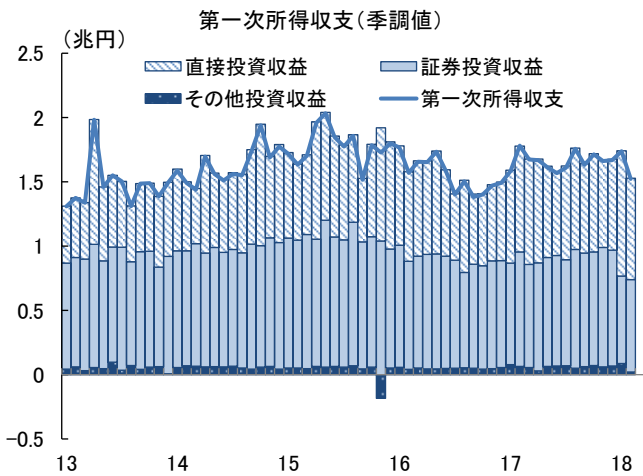
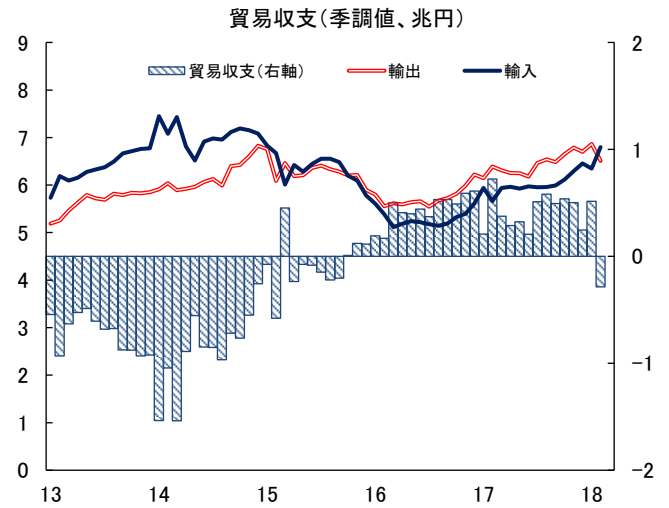
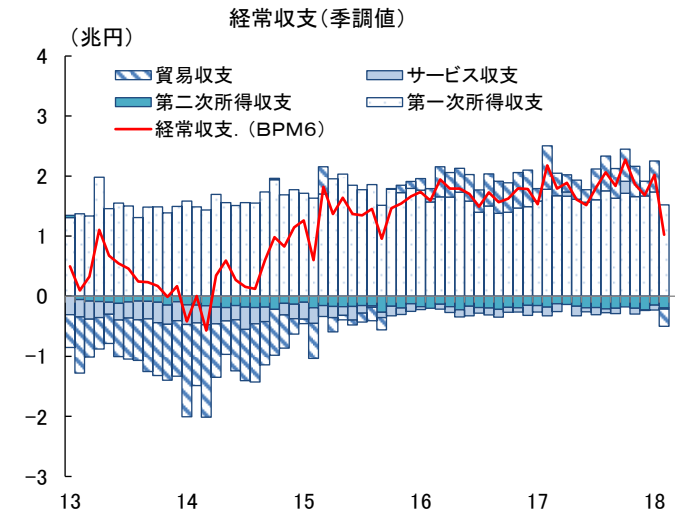
2月の貿易外収支（季節調整値）をみると、第一次所得収支は15,232億円の黒字と前月から黒字幅が大きく縮小した。証券投資収益の黒字幅はやや拡大したものの、直接投資収益が大きく減少（1月：+9,730億円→2月：+7,881億円）したことが影響した。ただし、直接投資収益の減少は、大口案件による押し上げ効果が剥落したことによるものであり、好調な世界経済を背景に今後も基調としては増加が続くとみている。証券投資収益については、前月からは黒字が小幅増加したものの、為替（ドル円レート）が前年比+4.6%の円高となったことを受けて、1、2月平均では水準がやや切り下がっている。

サービス収支は、▲226億円と前月から赤字幅が縮小した。その他サービスの赤字幅の縮小や旅行収支の黒字幅の拡大が寄与する形となった。旅行収支については春節による訪日外国人の増加が旅行収支の受取額増加の要因となった。

○経常収支は引き続き高水準を維持する見込み

以上のように、2月の経常収支（季節調整値）は、貿易収支の赤字転化を受けて、前月から黒字幅が大幅に縮小する結果となった。

経常収支の先行きは、高水準での横ばい圏内で推移すると予想している。今月赤字になった貿易収支については、今月は春節が輸出金額の押し下げと輸入金額の押し上げに作用したが、春節の影響は一過性のものであり、来月以降は黒字に戻るとみている。ただし、原油価格の上昇を受けて先行き輸入の増加が予想されることから、来月以降貿易収支が黒字化した後は、貿易収支は横ばい圏での推移となろう。所得収支についても、好調な世界経済は押し上げ要因だが、円高による受取額が目減りがマイナスになるため、この先一段と水準を切り上げることは難しいだろう。総じて、経常収支は、先行き高水準で一進一退の推移を続ける見込みだ。



(出所)財務省「国際収支統計」